

## 平成22年度受賞者一覧表

### 安田医学賞（研究助成）

（敬称略）

氏名	所属	研究課題
高井 義美	神戸大学大学院医学研究科 教授	細胞接着分子によるがんの進展機構の解明とその治療法開発への応用

### 癌研究助成

（敬称略・五十音順）

氏名	所属	研究課題
小川 誠司	東京大学医学部附属病院 特任准教授	炎症の脱制御による発がんメカニズムの解析
加藤 光保	筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授	がんの発生と進展におけるTMEPAIの作用
笹田 哲朗	久留米大学医学部医学科 准教授	上皮間葉移行(EMT)を標的とした新しい癌抗原の同定と免疫療法への応用
田中 知明	千葉大学大学院医学研究院 助教	エピゲノム創薬分子基盤を目指した分子間架橋技術によるがん幹細胞・iPS細胞における転写因子複合体解析とクロマチン/エピジェネティクス制御機構の解明
千葉 智樹	筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授	細胞周期を制御する新規ユビキチンリガーゼ調節因子の機能解析
藤田 恭之	北海道大学遺伝子病制御研究所 教授	正常上皮細胞と癌細胞の相互作用 —新規な癌治療法の開発を目指して—

### 若手癌研究助成

（敬称略・五十音順）

氏名	所属	研究課題
上田 健	広島大学原爆放射線医科学研究所 助教	癌の治療標的としてのMnk-eIF4E経路に関する研究
大西 俊介	北海道大学大学院医学研究科 助教	がん幹細胞を標的とした間葉系幹細胞による新規治療法の開発
地主 将久	北海道大学遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター 准教授	腫瘍内ミクロイド細胞由来因子を標的とした癌幹細胞治療戦略
平 直江	東京医科歯科大学難治疾患研究所 特任助教	癌におけるc-Jun・c-Mycの発現制御機構の解明
錦井 秀和	筑波大学人間総合科学研究科 講師	正常造血における巨核球分化と急性巨核芽球性白血病発症におけるNotchシグナルが担う分子制御機構の解明
藤田 敏次	大阪大学微生物病研究所 助教	制御性T細胞特異的細胞表面蛋白GARPに対する抗体を用いた、効果的な癌の免疫療法の開発
毎田 佳子	金沢大学医薬保健学域保健学系 助教	テロメラーゼの新機能を利用したがん治療に向けての基礎的研究
松原 淳一	京都大学大学院医学研究科 大学院生	血液プロテオミクス解析を用いた大腸癌分子標的治療の個別化に関する新しい血中ペプチドマーカーの開発と臨床応用
光武 範吏	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設 助教	日本人自然発症甲状腺癌とヒバクシャ放射線誘発甲状腺癌に関連する遺伝子多型の解析
村田 貴之	愛知県がんセンター 研究員	癌遺伝子LMP1を標的にしたEBウイルス関連リンパ腫の予防、治療薬の探索

### 海外研究助成

（敬称略・五十音順）

氏名	所属	研究課題
佐藤 賢文	京都大学ウイルス研究所 助教	ウイルス抗原HBZを標的とした成人T細胞白血病新規治療法確立へ向けた基盤研究
富丸 慶人	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生	血漿中microRNA発現解析による高度進行肝細胞癌に対するIFN併用動注化学療法の効果予測、およびそれに基づく治療抵抗性の克服

平成22年度受賞者一覧表

癌看護研究助成A

(敬称略)

氏名	所属	研究課題
高山 成子	石川県立看護大学 教授	がん終末期の認知症高齢者の看護の実態と看護師の困難

癌看護研究助成B

(敬称略・五十音順)

氏名	所属	研究課題
谷 規久子	国際医療福祉大学保健医療学部看護学科 准教授	腹腔鏡下胃がん切除術をうけた患者のケア – 短期入院患者に対する社会復帰へのサポートプログラムの開発 –
千葉 由美	千葉県立保健医療大学健康科学部 准教授	頭頸部悪性腫瘍による摂食・嚥下障害患者への医療支援の実態とニーズに関する基礎調査
塚本 康子	新潟医療福祉大学健康科学部 教授	がん患者参加型の子宮頸がん予防対策モデル
葉山 有香	大阪大学大学院医学系研究科 特任講師	前立腺がん患者の放射線照射方法の違いによる自尊感情とQOLの差異

癌看護研究助成(大学院学生)

(敬称略・五十音順)

氏名	所属	研究課題
北田なみ紀	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生	進行再発結腸・直腸がんで外来化学療法を受けている患者の口内炎発症の実態とセルフケアの現状
佐藤 陽子	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 大学院生	口腔がん手術患者の食機能維持に向けた看護栄養支援プログラム開発に関する研究
竹内 博美	聖路加看護大学大学院看護学研究科 大学院生	壮年期にある進行がん患者の夫をもつ妻の‘生きていく力’
玉井 奈緒	東京大学大学院医学系研究科 大学院生	乳癌癌性創傷と疼痛の実態に関する研究
西谷 葉子	兵庫県立大学大学院看護学研究科 大学院生	分子標的治療薬ソラフェニブによる手足症候群に対する重症化を予防する看護介入の検討